

さくら草特別支援学校

1 研究主題について

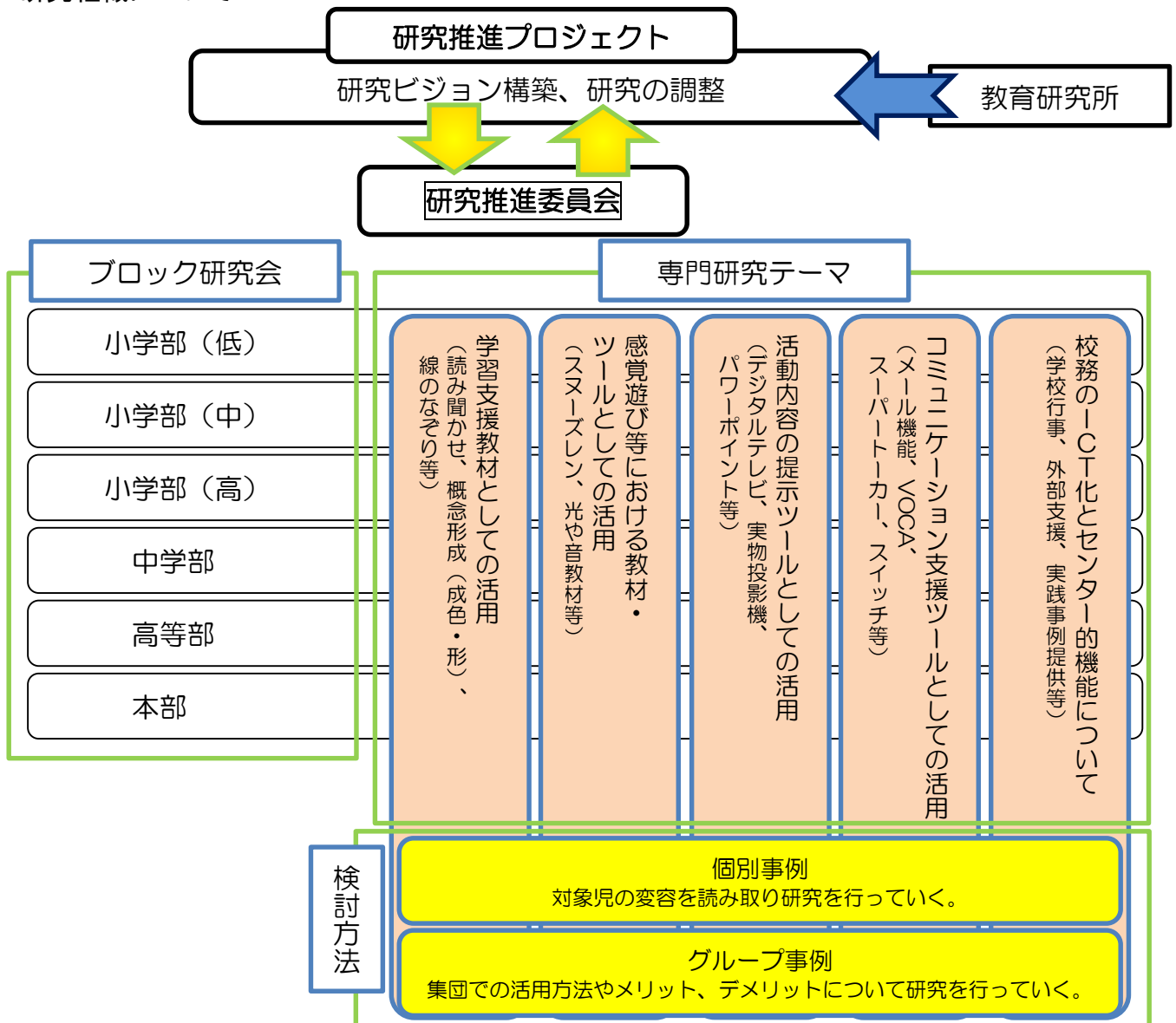
障害のある子どもたちの社会参加を支えるICT活用

～H25 どの指導グループでも ICT 機器を活用した授業ができるようにする～
～H26 特別支援学校のセンター的機能を活用した ICT 活用～

本校の研究主題は、学校教育目標である「ノーマライゼーション社会において、持てる力を発揮し共に生きる子どもを育てる」ことを念頭におき「障害のある子どもたちの社会参加を支える ICT 活用」とした。

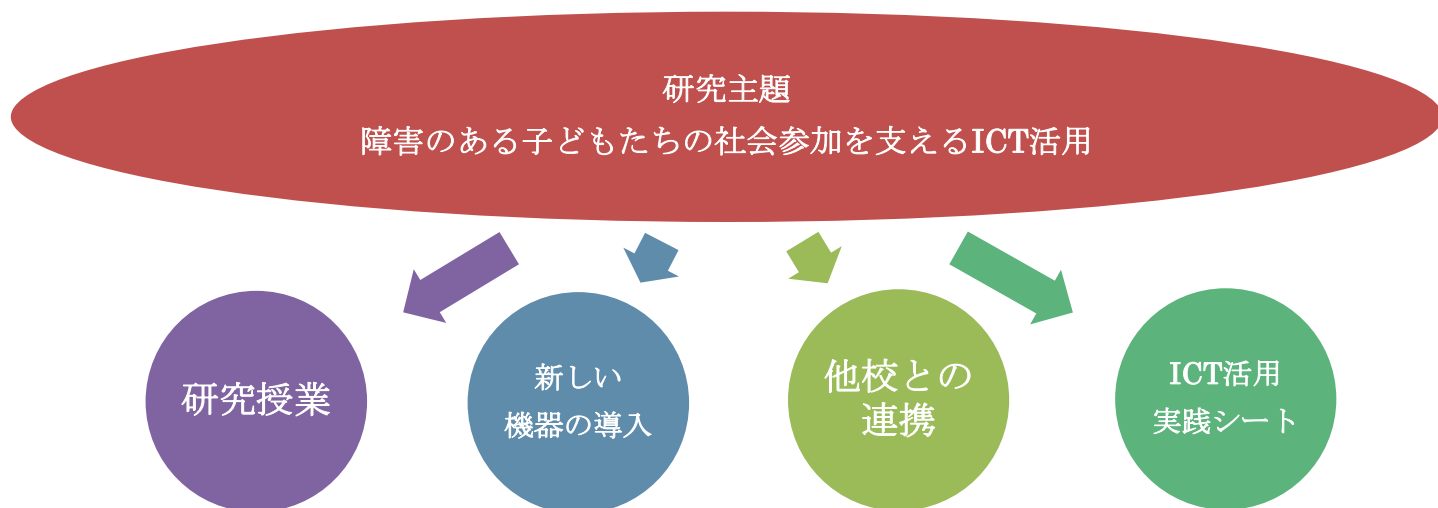
研究初年度である平成 25 年度は、学校内でどのブロックでも ICT 機器を活用した授業実践ができることを目標として実践の蓄積を図り研究を進めた。研究 2 年目である平成 26 年度は、前年度の研究を踏襲しつつ、特別支援学校のセンター的機能を活用すべく、研究の副題を「特別支援学校のセンター的機能を活用した ICT 推進」とし、本校の実践事例を通して、特別な教育支援を必要とする児童生徒の指導の一助となるよう ICT 活用の有効性を外部に発信することについて検討してきた。

2 研究組織について



年度当初にまず、平成25年度の反省を踏まえて、「全教職員が参加できる」学校課題研究を目標に、研究組織とその役割について明確にし、各ブロックの特色や児童生徒の実態に応じて、専門研究テーマと検討方法を選ぶようにして研究を進めた。

3 研究全般について



1 研究授業

研究授業を行う際の準備として、教育研究所の指導主事にご指導いただきながら、ICT活用の意義やポイントを踏まえた指導案の内容を検討した。また、「全教職員が参加できる」研究協議を目指し、付箋を使ったグループ別協議後に全体協議を行う、新たな研究協議の方法を取り入れた。

研究授業は、各ブロック1回を基本に、初任者や年次研修者の研究授業となるべく兼ねないように計画し、6月に2本（中学部ブロック、小学部高学年ブロック）、9月に1本（小学部低学年ブロック）、1月の本発表で1本（高等部ブロック）を実施した。

～成果とこれからの展望～

平成25年度は、4つの研究授業を実施し、個々の実態把握を行うとともに、ICTを活用する際には、ICTがなくても成立する授業づくりが基本であることが確認できた。また、ICTではなく具体物を活用する方が効果的な場面もあり、ICTの活用の必然性を明確にする必要がある等の課題も挙げられた。

平成26年度は、4つの研究授業を実施し、ICT活用によって、今までになかった児童生徒の反応を引き出せることや1つの授業にこだわらず、様々な授業で活用することでより効果が出ることを確認できた。今後は、学校以外の生活（家庭や卒業後）により密着したICT活用が必要で、単発的な活用ではなく継続的に活用していくことが大切である。



2 新しい機器の導入

平成26年度より導入された5台のiPadの校内利用規定作成や環境整備を4月から行い、5月には「iPadの活用方法について」の研修会を実施し、6月から各ブロックに1台割り当て運用を開始した。また夏季休業中には、外部講師による「特別支援教育におけるICTの効果的な活用」についての講義をきっかけに教職員のスイッチ教材への関心が高まり、工具や材料等を準備し、10月と11月にスイッチ作成自主研修会を実施するに至った。さらに高等部一年生は、タブレット端末の購入が就学奨励費の対象となったため、購入依頼及び個人用タブレット端末利用規定を作成し、2学期から活用を開始した。

～成果とこれからの展望～

平成25・26年度の2年間にわたり、合計10回の研修会を実施したことや各自が実践を継続して行ってきたことで、教員のICT機器への抵抗感や苦手意識が減り、ICT機器の活用頻度が増えた。また、今年度6月から運用を開始したiPadは、現在、各ブロックに1台割り当てられ、ほぼ毎日活用するブロックも多く、運用開始時よりも飛躍的に活用回数が増えた。活用回数が増えた理由としては、直感的な操作が可能なことや起動速度が速いこと、アプリの豊富さ等が挙げられた。

高等部一年生の個人用iPadは連絡帳の補足機能として活用したことで家庭との連携の充実につながった。また、生徒が操作しやすいスイッチをiPadに取り付けたことで操作への積極性の向上にもつながった。



3 他校との連携

他校との連携については、美園小学校の特別支援学級との交流を計画して、1学期と夏季休業中に打ち合わせを行い、2学期に4回、テレビ会議システムを活用したネット交流を実施した。12月には、まとめとしての直接交流を実施した。

通常の学級におけるICT機器を活用した合理的配慮を充実させるための手立てについて検討することを目的に市内小・中学校31校あてに「ICT機器を用いた支援に関する実態調査」を実施した。

～成果とこれからの展望～

美園小学校の特別支援学級と実施したテレビ会議システムを活用したネット交流では、日常的に互いの学校を訪問して交流することは難しいが、コミュニケーションの機会を補完したり、直接交流への期待感を引き出したりするのに有効であった。今後は、居住地校交流の事前学習等の様々な学校との交流場面での活用が期待できる。

本校のセンター的機能を活用した、市内小中学校31校に実施した「ICT機器を用いた支援に関する実態調査」結果からは、本校において障害特性に応じた個別事例実践を行い、蓄積していくことが市内小・中学校の児童生徒にとっても有効なICT機器の活用につながる可能性があることが確認された。



4 ICT 活用実践シート

平成25年度からの反省と今年度の副題を踏まえて、誰が見てもわかりやすく、活用しやすいICT実践シートを新たに作成した。また、学校課題研究日にICT実践シート集中作成日を設定し、多くの実践を蓄積できるようにした。12月には、本校Webページに、平成25年度と平成26年度のICT実践シートを公開し、情報発信を行った。

～成果とこれからの展望～

平成25年度は、49枚、平成26年度は、48枚の実践シートが作成された。実践シートの集計から本校児童生徒の実態から活用しやすい機器や機器の長所・短所等がわかってきた。今後も、校内での実践シート共有・活用の充実を図っていききたい。また、今年度末には、教育研究所Webページ上へ全実践シートのアップし、さいたま市の特別支援教育のセンター校として市内小・中学校等教職員の方々に少しでも寄与できればと考えている。



ICT活用シート

1. 該当学年の学習教材

タイトル

～教科領域名： ～ 学部： 名前

1. 活用するICT機器等

2. ねらい

3. 実践

4. 成果と課題

